

**鹿児島の会社が開発し販売開始**

**STOP 鳥獣害** 397

鹿児島県長島町のアムザス株式会社が、猪の習性を利用した動く侵入防止柵「イノシシガードシリーズ」を開発した。従来の侵入防止柵とは大きく異なる製品で、2021年に特許を取得。昨年12月に販売を開始し、普及を進めている。

同シリーズは、傾斜地の設置に向く「クルッと鼻で持ち上げると、三角柱部分が重心線を軸に前方へ回転し侵入を防ぐ。「スポット! イノシシガード」と、平地の設置に向く「スポット!

## 猪の習性利用した動く侵入防止柵

で設置長を伸長できる。

最大の特徴は、どちらも完全には固定されず動くということ。「クル

と! イノシシガード」

シガード」=図2=は猪が突っ込むとL字部分が支柱を軸に上下し、猪の後者はL字型に組み合わせた立体構造をしていく。それぞれ2倍幅を一つの単位としており、支柱を介して連結すること

ど! イノシシガード」の2種類。前者はワイヤーメッシュを三角柱型に、後者はL字型に組み合わせた立体構造をしていく。それぞれ2倍幅を一つの単位としており、支柱を介して連結すること

シガード」=図2=は猪が突っ込むとL字部分が支柱を軸に上下し、猪の後者はL字型に組み合わせた立体構造をしていく。それぞれ2倍幅を一つの単位としており、支柱を介して連結すること

前足が平面部の格子にはまり自由を奪う。開発した同社の大戸宏章さん(50)は「従来品の課題は破壊による侵入だつ

シガード」=図2=は猪が突っ込むとL字部分が支柱を軸に上下し、猪の後者はL字型に組み合わせた立体構造をしていく。それぞれ2倍幅を一つの単位としており、支柱を介して連結すること

前足が平面部の格子にはまり自由を奪う。開発した同社の大戸宏章さん(50)は「従来品の課題は破壊による侵入だつ

て! イノシシガード」

度」に採択された。県農業開発総合センターのミカントン煙で実施した試験では侵入阻止率100%を誇った。大戸さんは「猪被害に悩む中山間地域の農業を守るために、今後は普及に力を入れたい」と意気込める。

立場構造であることもポイントの一つ。大戸さんは「奥行きがあるのでくぐり抜けを防止でき込める。全国展開を視野に

各地で製品説明などを担

入戸野地区の話し合い(上)や目標地図の素案作成(下)では各委員がけん引



う際には、集約を前提に農地を引き継ぐよう働きかけている。

農業委員の山

本弘行さん(68)

は「高齢の耕作

者は農地を誰かに貸したいと考

えてはいるが、

実際に貸すため

の行動をとること

ができるないこ

地権者と話し合いで農地の貸借に精通している委員が間に入り調整すことで、貸借が円滑に進むことがある」と話す。

農業委員会事務局の早川洋次長は「地域計画の策定は、地域の担い手が主体となって行うことには農業委員・推進委員意味があり、計画を策定する際の調整やその実行には農業委員・推進委員の存在が必要不可欠」と力強く語った。



問い合わせ  
先=ohto@amz  
as.jp

う販売協力者や製造受託業者なども募集中だ。

郷土食材  
レシピ  
【山梨県】



(1人分296kcalカロリー)

## 農と村のルネサンス

持続可能な地域社会総合研究所 所長

藤山 浩

続く雪の少ない



今年も雪の少ない冬となりました。昔から豪雪で知られる上越市の中田地区でも、末、雪はほとんどあります。ここまで少ないといふことは、暮らしは楽なのですが、今年がそうだったように、に田んぼの水不足が起きる。昨年がそうだったように、